

大阪医科大学看護学教育カリキュラム評価

## 2020年度 報告書

大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会

大阪医科大学看護学教育カリキュラム評価 2020年度 報告書

目次

巻頭言

第1章 大阪医科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定・・・・・・・・・・1

1. 大阪医科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）
2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け
3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

第2章 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価の結果および総括・・・・・・・・5

1. 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価結果
2. 本学部の強みおよび課題

第3章 次年度に向けた課題・・・・・・・・・・8

1. 昨年度課題の振り返り
2. 昨年度より引き続き取り組む課題
3. 新たな課題

資料

1. 大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会運営要領・・・・・・・・10
2. 2020年度 大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会名簿・・・・・・・・12
3. 2020年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価・・・13  
根拠資料一覧 大項目 1. ディプロマポリシー  
大項目 2. 環境  
大項目 3. 過程  
大項目 4. 成果  
大項目 5. 改善
4. 2020年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価・・・22  
委員評価一覧 大項目 1. ディプロマポリシー  
大項目 2. 環境  
大項目 3. 過程  
大項目 4. 成果  
大項目 5. 改善

## 巻頭言

本学看護学部カリキュラム評価委員会では、これまでの文献や出版物から学び、また、たくさんの方からご助言をいただいて、どのようにしてカリキュラムの評価や改善を実施すべきかについて議論を重ねてきました。

カリキュラム評価は内部の教員の意見や考えで纏めてしまうのでは意味がありません。カリキュラム評価に関する見解の中には、本来、外部委員からだけで構成されるカリキュラム評価委員会により、対象となる学部等のカリキュラム評価が行われるのが望ましいとの意見もあります。

そのような意見を踏まえつつも、本学部のカリキュラム評価委員会の委員の構成は次のようになっています。看護学部教員3名、学務部職員1名の他、外部委員として医学部教員1名、他大学看護系教員1名、自治体に所属する専門家1名、また学生委員として学年の異なる2名の学生に委員を委嘱しています。内部の教員だけで構成しないことは勿論ですが、学務部の職員の方にも一緒にカリキュラムを振り返り、評価をしてもらう。そして、異なる立場から社会でご活躍されている外部委員をお招きし、カリキュラム、およびカリキュラムをめぐる環境等について評価をいただき、要所々々でもコメントを頂戴する。更に、学年の異なる学生委員にも2名加わってもらい、カリキュラム評価に反映させていくというコンセプトで委員会を運営しています。

本年度のカリキュラム評価委員会では(本年度はCOVID-19の影響に伴い、ZOOMでの開催となりました)、各委員の都合のつくかぎりで上記の委員のメンバーが会し、内部委員(看護学部教員+学務部職員)からの評価と外部委員からの評価、また、学生委員からの評価を照らし合わせ、評価できる事柄と改善すべき事柄を明らかにしました。また、あらかじめ、外部委員と学生委員には、評価項目別にコメントを送っていただいております。内部委員がそれぞれのコメントに対して回答していく形で進めていきました。その中で、内部委員が学生委員に改めて意見を聴いたり、あるいは、外部委員と学生委員が直接やり取りしあうなど、結果として、多角的に議論が展開する形となりました。

看護学部カリキュラム評価委員会ができて2年目を終えようとしていますが、まだまだ課題が多いことを実感しています。本報告書をお読みいただき、果たして、本当にカリキュラム評価になっているかどうか等、皆様から忌憚のないご意見をうかがうことができると幸いです。今後ともご協力の程、よろしくお願いいたします。

2021年3月

大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会

# 第 1 章

## 第1章 大阪医科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定

### 1. 大阪医科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）

本学の使命は、寄附行為の目的に基づき、人類の健康と福祉の維持向上に役立ち、国際的視野を持つ最良の医療専門職、教育者、あるいは研究者として活躍する人材の育成である（学則第1条）。また、本学の教育目的は、豊かな人間性を備え、人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材、変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材、及び地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探求心を持って活躍する人材を育成するための教育を実践することである（学則第5条）。

本学では、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、3つのポリシーに即した評価指標に基づいて学生の学修成果を測定・評価している。評価は、学生の入学時から卒業までを視野にいれ、教育課程レベル、科目レベルにおいて、多面的に行っている。本学では、アセスメントポリシーを踏まえた「教学マネジメント（大学がその教育目的を達成するために行う管理運営）」を確立させ、不断の教育改善に取り組んでいるところである。

以下に、機関レベル（大学レベル）および看護学部看護学科のアセスメントポリシーを示す。

表1. 大阪医科大学 機関レベル（大学レベル）のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
査定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドミッションポリシーを満たす人材か</li> <li>・アドミッションポリシーの妥当性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムポリシーに則った学修が進められているか</li> <li>・カリキュラムポリシーの妥当性</li> <li>・アドミッションポリシーの妥当性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマポリシー（以下、DP）を満たす人材になったか</li> <li>・DPの妥当性</li> <li>・カリキュラムポリシーの妥当性</li> <li>・アドミッションポリシーの妥当性</li> </ul>
機関レベル （大学レベル）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験</li> <li>・入学時調査</li> <li>・入試制度評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級率、休学率、退学率</li> <li>・学勢調査</li> <li>・正課外活動状況（短期留学、クラブ、ボランティア等）</li> <li>・ポートフォリオ</li> </ul>	<p>[卒業時]</p> <p>卒業時アンケート（学勢調査）</p> <p>国家試験合格率（医・保・助・看）</p> <p>研修先一覧（マッチング結果：医学部）</p> <p>就職率／進学率（看護学部）</p> <p>[卒業後]</p> <p>卒業生アンケート</p> <p>卒業生就職先／勤務先へのアンケート</p>

表 2. 大阪医科大学 看護学部看護学科のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
課程レベル (学部レベル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験</li> <li>・入学時調査</li> <li>・入試制度評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修得単位数</li> <li>・GPA</li> <li>・学勢調査 (カリキュラム評価・学修行動・DP 到達度調査)</li> <li>・教員によるカリキュラム評価</li> <li>・進級率、休学率、退学率</li> <li>・保健師、助産師コース希望者数</li> <li>・外部試験結果 (国家試験模試等)</li> <li>・正課外活動ポートフォリオ</li> <li>・入試制度別成績、態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業要件: 修得単位数、卒業演習評価</li> <li>・資格取得: 国家試験合格率</li> <li>・GPA</li> <li>・休学率、退学率</li> <li>・就職率、進学率</li> <li>・学勢調査 (カリキュラム評価・学修行動・DP 到達度調査)</li> <li>・卒業時到達目標の自己評価</li> <li>・正課外活動ポートフォリオ</li> <li>・入試制度別成績、態度</li> </ul>
科目レベル		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目評価 (講義・演習・実習)</li> <li>・実習ポートフォリオ</li> <li>・授業評価 (学生)</li> <li>・授業改善報告書 (教員)</li> <li>・ピアレビュー報告書 (授業見学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目成績 (講義・演習・実習)</li> </ul>

[https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/assessment\\_policy.html](https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/assessment_policy.html) 平成 31 年 4 月 1 日現在

## 2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け

本委員会は、定期的な自己点検・評価の取組を踏まえた本学における自主的・自律的な質保証への取組 (内部質保証) のひとつとして 2019 年 4 月 1 日に設置された。

本委員会の目的は、本学看護学教育カリキュラムについて継続的に評価することであり、委員に複数の学外有識者も含め多角的に評価を行うことで、自己点検および評価活動に反映させ看護学部教育水準の更なる向上を目指すものである。

本委員会は、「課程レベル (学部レベル) の PDCA サイクルをモニタリングする」という位置付けにある。PDCA サイクルとは、目標設定とその実現のためのプロセスを設計する Plan (企画・立案)、計画の実施とその効果を測定する Do (実施)、結果を分析し評価する Check (評価)、プロセスの継続改善に必要な措置を行う Action (検証・改善) の 4 段階を繰り返すことによって、継続的な改善を目指すマネジメントサイクルのひとつである。4 段階のステップとスパイラルを積み重ねるプロセスをモニタリングすることによって、より質の高い教育活動が可能となる。

PDCA サイクルのモニタリングの継続により、①教育目標の達成状況を把握することができる、②達成されていない教育目標についてその原因を探ることができる、③原因は把握から改善の道筋を明確にすることができる、④改善がどこまで進んだかを追跡することができる。

本委員会の運営要領は資料 1、2020 年度委員名簿は資料 2 に示す。

### 3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

#### 1) 評価項目と評価基準

本学看護学部看護学科のアセスメントポリシーおよび本委員会の目的・位置付けに基づき、評価項目が設定された。評価項目は、大・中・小項目で構成され、大項目は①本学看護学部ディプロマポリシー（学位授与の方針）、②教育設備に関する環境、③過程、④成果、⑤改善である。中項目は、大項目について 2～5 の項目、小項目は中項目をどのような点で評価するかを示す項目である。評価するための根拠となる資料をそれぞれ明示した。なお、評価項目で用いる「カリキュラム」とは、各科目および科目全体を指す。

評価基準は、A：十分に実施されている（解釈：PDCA がなされている）、B：概ね実施されている（解釈：一部実施にむけた検討がなされている）、C：大幅な見直し、改善が必要（解釈：PDCA がなされていない）である。

評価項目および評価基準は、本学看護学部教授会ならびに本委員会で協議し、決定された。表 3 に示す。

#### 2) 評価の方法

評価は、前年度に実施された本学看護学部看護学科の教育と教育をめぐる環境に関して、根拠資料（資料 3-1～3-5）ごとに示された「P」・「D」・「C」・「A」の内容から、評価基準に沿って評価し、コメントがある場合には記載がなされた。さらに、中項目ごとに総合評価が行われた。

学外委員（第 2～4 号委員）および学生委員（第 6 号委員）は各々、評価し、学内委員（第 1 号および第 5 号委員）は意見を集約し、評価を行った。

各委員による評価は、資料 4-1～4-5 のとおりである。この資料に基づき、本委員会で協議し、評価結果をまとめた。

なお、2020 年度の委員会は 2 回開催し（第 1 回委員会：2020 年 9 月 30 日、第 2 回委員会：2021 年 2 月 3 日）、いずれも委員の過半数の出席があり定足数を満たしている。

#### 3) 評価結果のフィードバック

本委員会の評価結果は、運営要領の第 5 条 4 に基づき、委員長が本学看護学部長に報告した。また、本学看護学部教授会ならびに本学看護学部学科会議にて委員長は報告を行い、本学看護学部教職員と評価結果の共有がなされた。

本委員会の全ての委員には報告書が送付された。

さらに、評価結果を広く共有すべく、報告書は本学ホームページに掲載し、その旨は本学看護学部学生に周知した。

表 3. 大阪医科大学看護学教育カリキュラム 課程レベル (学部レベル) の評価項目

大項目	中項目	小項目	資料	評価	コメント
1. ディプロマポリシー	①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる	科目ごとにDP①～⑤との対応が示されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業演習評価</li> <li>累積GPA</li> <li>休学率、退学率</li> <li>卒業時到達目標の自己評価</li> <li>資格取得：国試合格率</li> <li>進学率・就職率</li> <li>学勢調査</li> <li>正課外活動ポートフォリオ</li> </ul>		
	②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探索し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる	DP①～⑤の能力を有しているか学生が自己評価している			
	③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる	DP①～⑤の能力を有しているか外部指標を用いて評価している			
	④地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる				
	⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる				
2. 環境	①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている	学内に小グループで活動できる部屋がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>学勢調査</li> <li>学内ICT状況（キャンパスマップ、各階平面図）</li> <li>常勤教員数</li> <li>文部科学省調査「指定（認定）学校概況」等報告書</li> </ul>		
		学内に看護実践のセルフトレーニングができる部屋がある			
	②ICTの設備が整っている	学内に学生数のPCの台数がある			
		学内に文献検索、統計処理ができるPCがある			
	③カリキュラム*を運用する体制が整っている（*各科目および科目全体を指す）	学内のいずれも場所でも無料でインターネット（Wi-Fi）に接続できる			
		学生数に対して、常勤教員数が確保されている			
	④教育・実習に関する設備が整っている	学生数に対して、臨地実習指導者数が確保されている			
		学内に図書館がある			
学生が自己学習できる部屋がある					
学内に看護実践の基礎能力を身につける実習室がある					
		学内にキャリア形成のための情報収集ができる部屋がある			
3. 過程	①カリキュラム*は計画通り実施されている（*各科目および科目全体を指す）	GPA評価により学生の進捗状況を把握している	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科目評価</li> <li>実習ポートフォリオ</li> <li>授業評価</li> <li>進級率、休学率、退学率</li> <li>保健師、助産師コース希望者数</li> <li>教員によるカリキュラム評価</li> <li>修得単位数</li> <li>学期GPA</li> <li>履修のてびき</li> <li>授業改善報告書</li> <li>ピアレビュー報告書</li> <li>FD実施状況</li> <li>実習連絡協議会の報告資料</li> </ul>		
		教員によるカリキュラムの振り返りを行っている			
	②科目の配列はDPを達成できる最善のものとなっている	科目配置は基礎科目、専門基礎科目、専門科目の順となっている			
		各科目を通してDP達成できるよう配置されている			
	③教授活動の質の保証を示す根拠がある	学生による授業評価を行っている			
		FDを定期的実施している			
		授業評価に対する改善報告書を学生に返答している			
		教員間のピアレビューを実施している			
		臨地実習指導者に実習のフィードバックを行っている			
4. 成果	①カリキュラムの目標を達成している	看護技術経験表評価調査を実施・評価している	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科目評価</li> <li>修得単位数</li> <li>卒業先評価</li> <li>卒業時到達目標の自己評価</li> <li>ジェネリックスキルテスト</li> <li>卒業生就職先アンケート実施</li> <li>看護技術経験表評価調査</li> <li>資格取得：国試合格率</li> <li>卒業生就職先評価調査</li> </ul>		
		卒業生就職先アンケートを実施・評価している			
	②社会人基礎力を身につけている	ジェネリックスキルテストを実施・評価している			
		卒業生就職先アンケートを実施・評価している			
③雇用者は卒業生の能力に満足している					
5. 改善	①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている	学生と教職員が課題や問題点を共有する場がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科会議議事録</li> <li>卒業生就職先評価調査</li> <li>学生・教員懇談会（学生支援生活センター年報）</li> </ul>		
	②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次のPlanがたてられている	共有した課題や問題点の改善策を示す場がある			

評価 A…十分に実施されている  
 B…概ね実施されている  
 C…大幅な見直し、改善が必要



## 第 2 章

## 第2章 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価の結果および総括

### 1. 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価結果

根拠資料一覧は資料 3-1～3-5 に示した。各委員より集約した評価およびコメントの一覧表は資料 4-1～4-5 のとおりである。以下には大項目ごとに結果の概要を示す。

#### 1) 大項目 1. ディプロマポリシー

##### (1) PDCA サイクル

- ・「GPA（累積 GPA・単年 GPA）」、「休学率、退学率」、「資格取得：国試合格率」、「進学率・就職率」については、委員全員が A と評価していた。
- ・「卒業演習評価」、「卒業時到達目標の自己評価」、「正課外活動ポートフォリオ」については、半数以上の委員が A と評価していた。
- ・「学勢調査」については、資料が公開準備中であり、ほとんどの委員が B と評価していた。

##### (2) 総合評価

- ・ほとんどの中項目において半数以上の委員が A と評価していた。外部委員、学生委員、内部委員で評価のばらつきがあった「②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探究し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる」については、評価 B・概ね整備されているという結果であった。

#### 2) 大項目 2. 環境

##### (1) PDCA サイクル

- ・「文部科学省調査「指定（認定）学校概況」等報告書」については、委員全員が A と評価していた。
- ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた。
- ・「学内 ICT 状況」、「設備」については C の評価があり、充実したハードウェアの整備は今後の検討課題であることが指摘された。

##### (2) 総合評価

- ・すべての中項目において半数以上の委員が A と評価していた。「①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている」、「④教育・実習に関する設備が整っている」について外部委員、学生委員、内部委員で評価のばらつきがあり、評価 B・概ね整備されているという結果であった。

#### 3) 大項目 3. 過程

##### (1) PDCA サイクル

- ・「実習ポートフォリオ」、「教員によるカリキュラム評価」、「授業改善報告書」、「FD 実施状況」については、ほとんどの委員が A と評価していた。
- ・それ以外については、委員全員が A と評価していた。

##### (2) 総合評価

- ・外部委員、学生委員、内部委員で概ね一致した評価であった。すべての中項目において、十分に実施されているという結果であった。

#### 4) 大項目 4. 成果

##### (1) PDCA サイクル

- ・「卒業生就職先アンケート調査」、「看護技術経験表評価調査」については、ほとんどの委員が A と評価していた。
- ・それ以外については、委員全員が A と評価していた。

##### (2) 総合評価

- ・すべての中項目において半数以上の委員が A と評価していた。「③雇用者は卒業生の能力に満足している」について、外部委員、学生委員、内部委員で評価のばらつきがあり、評価 B・概ね整備されているという結果であった。

#### 5) 大項目 5. 改善

##### (1) PDCA サイクル

- ・「学科会議議事録」については、委員全員が A と評価していた。
- ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた。
- ・「3 センター活動報告」については C の評価があり、学生への周知の必要性が指摘された。

##### (2) 総合評価

- ・「①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている」「②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次の Plan がたてられている」について、外部委員、学生委員、内部委員で評価のばらつきがあった。すべての中項目について、評価 B・概ね整備されているという結果であった。

## 2. 本学部の強みおよび課題

### 1) 本学部の PDCA サイクルから評価した結果の強み

外部委員、学生委員、内部委員ともに A と評価している項目および評価は下記の通りであった。

#### ・大項目 1. DP

中項目①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる

中項目③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる

中項目⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる

#### ・大項目 3. 過程

中項目①カリキュラムは計画通り実施されている

中項目②科目の配列は DP を達成できる最善のものとなっている

#### ・大項目 4. 成果

中項目①カリキュラムの目標を達成している

以上より、知識技術の習得や看護実践の教授、カリキュラムについては PDCA が回っており、常に振り返り、改善にむけて動いていると評価できる。

## 2) 本学部の PDCA サイクルから評価した結果の課題

外部委員, 学生委員, 内部委員の評価で乖離のあった項目および課題は下記の通りであった.

### ・大項目 1. DP

中項目②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探求し, 新しい知識や技術の創造に取り組むことができる

### ・大項目 2. 環境

中項目①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている

中項目④教育・実習に関する設備が整っている

### ・大項目 4. 成果

中項目③雇用者は卒業生の能力に満足している

### ・大項目 5. 改善

中項目①学生, 教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている

中項目②評価結果, 前回の目標, 社会状況などのデータや事実に基づいて, 連続性のある次の Plan がたてられている

以上より, 多面的かつグローバルな視点に対しては, 国際交流の実施やさらなる土壌づくりの推進によって, 今後の改善を期待する. そして, 充実したハードウェアの整備は, 今後の検討課題である. さらに, 教職員は目標達成のための課題や問題点を共有することができているが, 学生への周知が課題である. 総代・副総代が参加する学生と教員の懇談会や, 個別の学生の意見に随時対応しているが, 今後, 学生全体の意見の集約や結果の周知および活用が課題である.

# 第 3 章

### 第3章 次年度に向けた課題

今年度は、本学看護学教育カリキュラム評価の初年度であった昨年度の改善点を踏まえ運営を行った。昨年度の課題を振り返り、その中で、昨年度から引き続き取り組むべき課題および次年度に向けてはコロナ禍における運営について課題が示されたため以下に記す。

#### 1. 昨年度課題の振り返り

##### 1) 学生委員への役割のレクチャーについて

昨年度課題とされた学生委員への本委員会の趣旨や委員の役割の理解促進について、今年度は複数回レクチャーを行い、疑問や不安点はメール等でもやり取りを行った。それにより、学生委員から多数の意見を得ることができた。

##### 2) 評価のサイクルについて

昨年度課題とされた、1年間でPCDAを回すことが容易ではない項目について、特にICT機器性能向上に対する改善を図るためには、設備投資など設備側が改善に追いつかない点もあるため、ハードウェアの整備は今後の検討課題と整理し、経年での評価を実施することとなった。

#### 2. 昨年度より引き続き取り組む課題

##### ・ 委員構成について

『大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会運営要領』第3条（組織）（6）に看護学部生（第2学年学生代表1名、第4学年学生代表1名）との記載があるが、外部委員より、全学年に意見聴収することが望ましいという意見があった。学年によって授業構成が違うため、意見の視点も異なる事から幅広い意見が得られる利点がある。しかしながら、カリキュラム評価委員会に参画する学生委員は授業や実習あるいは国家試験対策が優先となるため、委員会や学内ワーキングにおいて、全学年が一同に参加することは難しい。そのため次年度への改善として、委員会前に学生代表による学内の会議を設け、全学年の意見を聞く等を実施することで、多様な意見を抽出できるように進めていくことが必要である。

#### 3. 新たな課題

##### 1) 新たな視点での評価項目の追加について

外部委員より、COVID-19の影響による実習の工夫（学外・学内実習を含む）もカリキュラム評価が必要であるという意見があった。どのように実習の工夫を行っているか、また、ハイブリッドを利用した実習が実施された場合は、そのことによって今後、カリキュラムにどのように影響してくるか等の評価および課題については、次年度の検討課題としたい。

##### 2) 卒後アンケート利用について

外部委員より、COVID-19により新卒看護職の職員教育にも影響が及んでいる現状があり、学部教育と卒後研修のつながりをどのように保つかが課題という意見があった。また、本学で実施している学生向け卒後アンケートの結果や、学部教育で取り組んでいる工夫について、就業先へ広くフィードバックできるような取り組みについても期待したいという意見があり、次年度の検

討課題としたい。

3) コロナ禍中の在學生へのフォローについて

現在の在學生（2020年度の1~3年生）は、COVID-19の影響により登校することができない時期があった。学外委員より、特に空白期間が多かった1年生には、細やかなフォローや先輩から話を聴くことができる機会を設ける事が必要ではないかという意見があった。実習が例年どおりには実施できなかった時期があったことの学生の受けとめ等について、COVID-19の影響による学生の声を拾いアンケートを実施する取り組みについては、次年度の課題としたい。

# 資料



## 大阪医科大学 看護学部カリキュラム評価委員会運営要領

(平成31年4月1日施行)

### (目的)

**第1条** この運営要領は、看護学部長規則第2条に基づき、大阪医科大学看護学部に、大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会（以下、「委員会」という。）を置き、その必要な事項を定める。

### (設置)

**第2条** 大阪医科大学の看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするために委員会を置く。また、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させ看護学部教育水準の更なる向上を図るものとする。

### (組織)

**第3条** 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 看護学部教員3名
- (2) 医学部教員1名
- (3) 他大学看護系教員1名
- (4) 自治体、商工会議所、企業等からの委員1名
- (5) 看護学事務課1名
- (6) 看護学部学生（第2学年生代表1名、第4学年生代表1名）

2 委員は、学部長の推薦に基づき、看護学部教授会の議を得て学部長が委嘱する。

### (審議事項)

**第4条** 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 看護学部の教育カリキュラムの評価に関すること。
- (2) その他、カリキュラムに関すること。
- (3) その他、学部長の諮問する事項

### (委員長)

**第5条** 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、看護学部教員からの互選により選出する。

3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

4 委員長は、委員会において審議した結果を看護学部長に報告するものとする。

### (任期)

**第6条** 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、看護学部学生委員の任期は1年とする。また、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

**第7条** 委員会は、原則として年に2回以上開催する。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことはできない。
- 3 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席させることができる。

(改 廃)

**第8条** この運営要領の改廃は、委員会で発議し、看護学部教授会の議を経て、看護学部長が行う。

**附 則**

この運営要領は、平成31年4月1日から施行する。

資料 2. 2020 年度 大阪医科大学看護学部カリキュラム評価委員会名簿

任期期間：2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

役 職	所属	職位	氏名	第 3 条 組織の各号
委員長	看護学 精神看護学領域	教授	荒木 孝治	第 1 号：看護学部教員
委員	看護学 公衆衛生看護学領域	准教授	仲下 祐美子	第 1 号：看護学部教員
委員	看護学 母性・助産看護学領域	助教	近澤 幸	第 1 号：看護学部教員
委員	医学教育センター	専門教授	瀧谷 公隆	第 2 号：医学部教員
委員	大阪府立大学 大学院看護学研究科	教授	細田 泰子	第 3 号：他大学看護系教員
委員	高槻市保健所 保健予防課	主査	澤田 恵津子	第 4 号：自治体，商工会議 所，企業等からの委員
委員 a)	学務部 看護学事務課	課長	原口 浩幸	第 5 号：看護学事務課
委員 b)	学務部 看護学事務課	課長補佐	川端 由夏	第 5 号：看護学事務課
委員	看護学部	第 2 学年 学生	総代 A	第 6 号：看護学生第 2 学年 代表
委員	看護学部	第 4 学年 学生	総代 B	第 6 号：看護学生第 4 学年 代表
オブザー バー c)	学務部 看護学事務課	事務員	高橋 七枝	—
オブザー バー d)	学務部 看護学事務課	事務員	橋本 千恵子	—

※任期は 1 年 再任を妨げない

※学生の任期は 1 年 毎年 4 月以降に総代の見直しがある

- ・委員 a) 任期期間：2020 年 4 月 1 日～2020 年 9 月 30 日
- ・委員 b) 任期期間：2020 年 10 月 1 日～2021 年 3 月 31 日
- ・オブザーバー c, d) 看護学部長および委員長の了解により任命

任命期間：2020 年 9 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

資料3-1. 2020年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価

大項目 1. ディプロマポリシー

中項目	小項目	総合評価
①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる	科目ごとにDP①～⑤との対応が示されている	
②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる		
③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる		
④地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる		
⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる		
	DP①～⑤の能力を有しているか外部指標を用いて評価している	

評価	解釈
A…十分に実施されている	PDCAがなされている
B…概ね実施されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・卒業演習評価	○	2019年度年報	19	3. 4年次選択の方法の検討	20	3. 1) 卒業演習学生配置 卒業演習配置決定方法について前年度学生の意見を聴取し、今年度決定方法を検討した。卒業演習発表会に下級生が参加可能な日時・合同発表会の設定と周知について検討した。	24	2. 3) 4年次選択の方法の検討（卒業研究、保健師及び助産師の選抜） (1) 卒業演習決定方法について4年生より聴き取りを行い、昨年度同様、ターニングポイントを活用した方法とした。卒業演習配置人数の算出方法について検討し、大学院生数を考慮せず対象学部生数から配置人数を決定した。卒業演習報告会について3回生や他領域の4回生が参加しやすい日程調整を教育センターが行った。2020年度の卒業演習報告会は、3回生の出席可能な時期を実習委員会と調整した。また、卒業演習要項に報告会開催時期および実施方法について記載した。	27	2. 3) 4年次選択の方法の検討（卒業研究、保健師及び助産師の選抜） (1) 改善後の報告会実施時期および方法の評価を行う			
・GPA（累積GPA・単年GPA）	○	2019年度年報	19	4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導（GPAの活用）	20	4. GPAが2.00（望ましい基準に達している）未満の学生に対し、チューター教員等による学修指導を実施するため、取り組みによって改善がみられたか評価した。今年度より学期毎のGPAが出るため、学修指導対象の基準について検討した。科目間の評価の平準化方法を検討し、平準化をすすめた。	24	1. 4) GPAの平準化は、IR室の協力のもと各期に各科目の評価結果を提示し、各科目責任者が授業改善に活用するサイクルが構築できた	27-28	2. 4) 構築したシステムに基づいて、平準化を促進 2. GPA2未満の学生への学修指導の強化			
	○	HP				*1	2019年度の看護学部 学年ごとのGPA分布を公開している						
・休学率、退学率	△	休学率：公開資料なし（正式な公開資料はないが、看護学事務課が管理している）											
	○	2019年度年報			10	3) 学生在籍数に退学者数が明記されている							
	△	2019年度教授会議事録：公開資料なし（学内教職員のみ閲覧可能）			32	8) 学籍移動について 進路変更による退学が3名、休学が1名、復学が2名であった。チューターが窓口になり、個別の事情に配慮しつつ、関係諸機関とも連携を取り対応している。					休学者、退学者は教授会で随時、報告されている。教員間でも共有されている。		
・卒業時到達目標の自己評価	○	2019年度年報	19	2. 卒業時到達目標に関すること	20	2. 卒業時到達目標に関すること 学勢調査の結果をもとにカリキュラム内容について検討した。また、「ディプロマポリシーに基づく卒業時看護実践能力到達度評価」については、カリキュラム委員会が担当し、分析結果を共有した。	24	1. 2) 本学のDPに基づく卒業時看護実践能力到達度を評価することを目的に、カリキュラム委員会が担当し、2019年度4年生84名にスマホで実施し評価した。	27	2. 2) 各年度、各学生の継続的な比較が必要と考える。課題探求力を向上させるためにグローバルな視点を養う学習環境づくりが必要と考える。			

資料	根拠資料の 公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員 コメント
・資格取得：国試合格率	○	HP			*2	HP内に合格率、学習支援内容が明記されている							
	○	2019年度年報	51	1～6. 全員合格を目指した国家試験対策指導	51-53	2)～9). 模試と対策講座、図書購入、チューターとの情報共有、勉強会、保健師・助産師国家試験対策、自己採点会、学生へのアンケート	53	看護師、保健師、助産師国家試験の全員合格	53	2. 1) アンケート結果の分析から、国家試験対策委員の学生を中心に学生間で協力しながら学習効果を高める方法を学生自身が見出していくように働きかけていく必要がある。2) 勉強会の折に行う小テストの教材について、著作権を保護しながら、学生にとって学びが効果的なものとなるための方法について更なる検討が必要である。			
・進学率・就職率	○	HP			*3	HP内に就職情報、就職・キャリアサポート、就職に関する各種アンケート結果、就職・進路状況、主な就職先が記載されている。		就職・進路全員決定					
	○	2019年度年報	49	1～9. 就職や進路の支援	49-50	1～9. キャリアサポートルームやユニバでの学生に対する就職情報提供、就職ガイダンスの実施、就職支援業者による履歴書・面接対策の講義資料の教員への共有、就職活動および内定状況の把握、履歴書添削セミナー（書面指導）、就職活動スケジュールや支援内容の周知、人事担当者の対応、HP更新	50	学生の意識向上をはかった。積み上げ式のガイダンス企画は、一定の効果が学生にのびてきている。	50	就職活動および就業調査票は、ユニバでの提出に変更し、集計作業の簡便化、後輩への情報提供の迅速化をはかる。感染症対策で、次年度の採用試験が延期となっている施設が多いため、タイムリーな学生への情報提供、個別相談等の支援が必要と考えられる。			
・学勢調査	○	HP			*4	2019年度学勢調査の一部（学修実態）のみ掲載されており、その他はバナーのみである。					2017年度は、回答者データ、学生生活の基本データ、学内施設の利用状況と満足度、学修時間・睡眠時間、課外活動、経済状況、アルバイト、不安・悩み・ハラスメント・その他のトラブル、チューター制度、大学生生活全般の満足度が掲載されている。2018年度は、回答状況、キャンパス生活に関すること、キャンパス外の生活に関すること、大学生生活全般に関すること、卒業後の進路に関すること、学修実態が掲載されている。		
		2019年度学勢調査報告書			85-88	本学の教育方針についての回答結果が記載されている。					2019年度学勢調査報告書が、完成した。2021年1月頃にHPに公開予定である。		
・正課外活動ポートフォリオ	○	2019年度年報	29	11. 正課外活動の作成	29	正課外活動の作成についての計画、正課外活動の入力に関する学生への周知実施計画							
	△	2019年度第1～12回学生生活支援エンター事録：公開資料なし（学内教職員のみ閲覧可能）	-		-	学生・教員に看護学部「正課外活動ポートフォリオ」実施要領について周知を行った。（第4・5回会議事録）		学生生活支援センターの会議において、正課外活動ポートフォリオ学生アンケート結果の報告があった。3年生は、実習ポートフォリオと回答時期が重なっており別々のものであるとの理解が出来ていない学生もいた。（第12回会議事録）	-	次年度に向けて詳しい周知が必要である。今後も引き続き正課外活動ポートフォリオの実施、学生アンケートを実施する。（第12回会議事録）			

注) 「2019年度年報」は「大阪医科大学看護学部・大阪医科大学大学院看護学研究科 年報 2019年度」を指す

HP資料：HP内のURL

\*1 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/gpa2019.html>

\*2 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/exam.html>、<https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/f2pjpgc000000i41n.html>

\*3 <https://www.osaka-med.ac.jp/campuslife/nursing/support.html>

\*4 <https://www.osaka-med.ac.jp/campuslife/gakuzeichousa.html>

資料3-2. 2020年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 2. 環境

中項目	小項目	総合評価
①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている	学内に小グループで活動できる部屋がある	
	学内に看護実践のセルフトレーニングができる部屋がある	
②ICTの設備が整っている	学内に学生数のPCの台数がある	
	学内に文献検索、統計処理ができるPCがある	
	学内のいずれも場所でも無料でインターネット (Wi-Fi) に接続できる	
③カリキュラム*を運用する体制が整っている (*各科目および科目全体を指す)	学生数に対して、常勤教員数が確保されている	
	学生数に対して、臨地実習指導者数が確保されている	
④教育・実習に関する設備が整っている	学内に図書館がある	
	学生が自己学習できる部屋がある	
	学内に看護実践の基礎能力を身につける実習室がある	
	学内にキャリア形成のための情報収集ができる部屋がある	

評価	解釈
A…十分に整備されている	PDCAがなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・学勢調査	○	2019年度学勢調査報告書			52-63	4. 学内施設の利用頻度と満足度として以下の項目が明記されている ①図書館 ②演習室・自習室 ③1階学生ホール ④3階オープンスペース ⑤講義室1.2.4.5 ⑥講義室3 ⑦情報処理室 ⑧セルフトレーニングルーム ⑨地下食堂 ⑩保健管理室 ⑪看護学事務課 ⑫クラブ部室					2021年1月頃にHPに掲載予定		
・学内ICT状況 (キャンパスマップ、各階平面図)	○	看護学部学生生活ガイド2019年度			27	キャンパスマップ (構内建物案内図) で本館・図書館棟などの場所が明記されている							
	○	HP			*5	同上							
	△	2019年度第1～11回学科会議議事録：公開資料なし (学内教職員のみ閲覧可能)			-	情報処理室が講義室3と同じシステム環境になったことが明記されている (第5回会議議事録)							
	○	2019年度年報			31	3) 講義室1のWi-Fi環境について 送信がうまくできないことがあるため、確認を依頼したことが明記されている			-	つながりにくさを解消するために、wifi周波数を2.4GHzと5GHzを併波にした (資料なし)	2020年1月7日にUNIPAとメールで学生と教職員に周知し、それ以降、つながりにくいといった意見は出ていない		
・常勤教員数	○	2019年度年報			2-3	教員構成及び教員数、非常勤教員や実習補助員の採用について明記されている							
	△	毎年5月に文部科学省に提出：公開資料なし (看護学事務課が保管している)				実習施設における実習指導者数は、報告6：実習施設等の概要に明記されている							

資料	根拠資料の 公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員 コメント
・設備 ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニングルーム ウ) PC台数 エ) 文献検索、統計処理が可能なPC オ) 無料インターネット(Wi-Fi)接続 カ) 図書館 キ) 自学自習室 ク) 実習室 ケ) キャリアサポートルーム	○	看護学部学生生活ガイド2019年度			9-12	ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニングルーム エ) 文献検索、統計処理が可能なPC オ) 無料インターネット(Wi-Fi)接続は、看護学部棟のすべての階で利用可能であることが明記されている キ) 自己自習室 ク) 実習室について、利用時間や利用手続き等が明記されている ケ) キャリアサポート及びサポートルーム利用方法について明記されている					エ) 文献検索、統計処理が可能なPCはそれぞれ5台であったが、2019年度後期から全端末で利用可能となり、学生に周知済(2019年9月)		
	○	2019年度年報	29	10. 学習環境の整備	5	ウ) PC台数は、ノート型PC95台と明記されている	33	椅子・机の再配置を行い、照明を明るくしたため、フリースペースへの学生の利用率が上がった	34	学生が主体的に勉強し、安心して学生生活を送ることができる環境整備を行う			
	○	HP			*6	カ) 図書館は、利用時間や利用方法が掲載されており、オンラインでの文献複写申込なども整備されている	50	キャリアサポートルーム利用者は88名(昨年度比57%up)					
	○				*7	ア) グループ演習室は、学生グループが自学自習できる場所として掲載							
	△	各階平面図：公開資料なし(2016年度までは公開していたが防犯上等の理由により現在は非公開。構内の各階に掲示あり)					ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニング室 ク) 実習室 ケ) キャリアサポートルームと、情報処理室の場所が明記されている						

HP資料：HP内のURL  
 \*5 <https://www.osaka-med.ac.jp/about/campusmap.html>  
 \*6 <https://www.osaka-med.ac.jp/~tosh/>  
 \*7 <https://www.osaka-med.ac.jp/about/facilities/north.html>

資料3-3. 2020年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価

大項目 3. 過程

中項目	小項目	総合評価
①カリキュラム*は計画通り実施されている（*各科目および科目全体を指す）	GPA評価により学生の進捗状況を把握している	
	教員によるカリキュラムの振り返りを行っている	
②科目の配列はDPを達成できる最善のものとなっている	科目配置は基礎科目、専門基礎科目、専門科目の順となっている	
	各科目を通してDP達成できるよう配置されている	
③教授活動の質の保証を示す根拠がある	学生による授業評価を行っている	
	FDを定期的に実施している	
	授業評価に対する改善報告書を学生に返答している	
	教員間のピアレビューを実施している	
	臨地実習指導者に実習のフィードバックを行っている	

評価	解釈
A…十分に整備されている	PDCAがなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・各科目評価	○	2019年度年報	19	1. ②授業・実習評価に関する事項	19	1. 2) 教員による改善報告書の実施を行い、かつ各領域にて自己点検を行うよう注意喚起した	22	1. 1) (2) 教員による改善報告書の作成を行うことができている。改善報告書は年度ごとの改善点が一覧で見られるため、改善点の推移が見やすいようになっている					
					67-76		各領域において各科目の実施・評価等を行った		67-76				
・カリキュラムマップ	○	HP			*8	4年間のカリキュラムの流れが明記されている							
・カリキュラムツリー	○	HP			*9 *10	・ディプロマポリシー毎に教育課程の内容が明記されている ・各学部における教育課程の系統性、順次性、水準を明らかにし、学生の履修計画、学修行動の助けとなるように、2020年度より科目ナンバリング制度を導入した							
・修得単位数	○	2019年度年報			61-66	授業科目一覧							
	○	2019年度版履修のてびき			30	卒業要件・取得資格							
・実習ポートフォリオ	○	2019年度年報	19	1. ⑥実習ポートフォリオ検討（実習委員会と連携）	20	1. 6) 実習ポートフォリオを導入し、評価について教員と学生双方にアンケートを実施した	23-24	1. 1) (6) アンケートの結果、教員と学生の評価はおおむね良好であり、実習ポートフォリオの実施は学生が実習に取り組むうえで自己の課題を明確にし、目標を立てる目安になったと考えられた	27	2. 1) (6) アンケート結果を踏まえ、学生に対して実習ポートフォリオの目的や入力時の留意事項について十分に説明する、記入漏れを減らすために記入時期にアナウンスを行う、実数制限をなくし入力しやすい書式とする			
・授業評価	○	2019年度年報	19	1. ②授業・実習評価に関する事項	19	1. 2) 授業評価、実習評価実施要領に基づいて2019年度もユニバを用いた評価を行った	22	1. 1) (2) ユニバを用いた授業評価・実習評価に変更してから、紙媒体で行っていた形式に比べ、引き続き高い回収率を維持できている	26	2. 1) (3) 前期に比べ後期の回収率が低い傾向にあるため、後期回収率向上に向けた対応を検討する			
	○	HP			*11	2019年度授業評価結果と実習評価結果を公開している							
・進級率、休学率、退学率	△	進級率、休学率：公開資料なし（正式な公開資料はないが、看護学事務課が管理している）									進級率、休学者、退学者は教授会で随時、報告されている。教員間でも共有されている		
	○	退学率：2019年度年報			10	3) 学生在籍数に退学者数が明記されている							
	△	2019年度教授会議事録：公開資料なし（学内教職員のみ閲覧可能）			-	休学・退学した学生に関して教授会で共有されている							



資料	根拠資料の 公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員 コメント
・保健師、助産師コース希望者数	○	2019年度年報	19	3. 4年次選択の方法の検討	20	3. 2) 保健師および助産師受験資格コースの選抜は学事予定等を踏まえたスケジュールを立て実施した	24	1. 3) (2) (3) 選抜はスケジュールに沿って実施し、保健師38名、助産師7名を選抜した	27	2. 3) (2) (3) 選抜方法の点検・評価を行う			
・教員によるカリキュラム評価	○	2019年度年報	35	2. 3) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートの立案と実施	35	2. 3) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートは隔年実施とする	38	2. 1) (4) アンケートは次年度実施					
	○	HP			*1	2019年度の看護学部 学年ごとのGPA分布を公開している							
・GPA (全体推移・単年GPA・個別GPA)	○	2019年度年報	19	4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導 (GPAの活用)	20	4. GPAが2.00 (望ましい基準に達している) 未満の学生に対し、チューター教員等による学修指導を実施するため、取り組みによって改善がみられたか評価した。今年度より学期毎のGPAが出るため、学修指導対象の基準について検討した。科目間の評価の平準化方法を検討し、平準化をすすめた。	24	1. 4) GPAの平準化は、IR室の協力のもと各期に各科目の評価結果を提示し、各科目責任者が授業改善に活用するサイクルが構築できた	27-28	2. 4) 構築したシステムに基づいて、平準化を促進 2. GPA2未満の学生への学修指導の強化			
・授業改善報告書	○	2019年度年報	19	1. ②授業・実習評価に関する事項	19	1. 2) 教員による改善報告書の実施を行った	22	1. 1) (2) 教員による改善報告書の作成を行うことができています。改善報告書は年度ごとの改善点が一覧で見られるため、改善点の推移が見やすいようになっている			2019年度から実施され、授業改善報告書は、前期終了時・後期終了時に学生に公開されている		
・ピアレビュー報告書	○	2019年度年報	19	7. 公開授業 (授業見学) に関する事項	21	7. 4月・9月に授業見学の参加を促し、参加者数、参加が困難な状況の有無の検討、参加を促す方法、非常勤担当の講義を対象とするか等を検討した	25	1. 7) 全体教員の30%の参加であった。授業見学科目は公衆衛生学、看護学科目が多かった	27	2. 7) 延べ人数が増加したが、授業見学を実施している教員が固定化されている。また、昨年と異なり、前期の見学が少なく後期に増加していることから、参加方法について検討する			
・FD実施状況	○	2019年度年報	19	6. FD企画と実施	21	6. 教育方法に関する学内交流会と、教員ティーチングポートフォリオの講義・演習を2回実施した	24-25	1. 6) 学内交流会では、教育の評価方法を学ぶことができ、個人の教育方法を考えることができた。小グループにてディスカッションを行った。講演会は、医学部からの参加も多くあり、教育を考える機会となったと好評であった。その結果、ティーチングポートフォリオを作成につながった	27	2. 6) 教員および院生の教育実践力を高めるFD企画は、時間の制約があるなかやり方等を考えていく。領域を超えた交流 (意見交換) が必要、引き続き検討を要す			
			41	7. 対応困難な学生への対応に関する意見交換会の開催、FD研修会の企画	42	8. 対応困難な学生への対応/委員会内FD研修: 対応等について委員会内FD研修を行った。その後、学科内FD研修へと展開する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のために中止となり、委員会内FDの成果を文書にて共有し、次年度の取り組みとすることになった			43	健康障害をもつ学生や対応困難な学生への支援体制の強化			
・実習連絡協議会の報告資料	○	2019年度年報	41	1. 実習連絡協議会の企画・運営、協議会のあり方に関する検討	41	2. 6月5日に開催し、I部は前年度の実習状況と今年度の実習計画の報告、II部は領域別分科会を行った。参加者は計50名 (看護部29名、外部施設21名) であった	43	2. 3) 実習施設との調整をとりながら患者家族とともに学生への不利益が生じないよう実習を進めていく必要がある	43	4. 臨地教育教員の実習連絡協議会への参加促進、指導上の情報共有の活発化			

HP資料: HP内のURL

\*8 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/curriculum.html>

\*9 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/tpv6n4000000mg8-att/f2pjpgc000000cqbz.pdf>

\*10 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/f2pjpgc000000cq76.html>

\*11 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/f2pjpgc000000gufj.html>

\*1 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/gpa2018.html>、<https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/gpa2019.html>

大項目 4. 成果

中項目	小項目	総合評価
①カリキュラムの目標を達成している	看護技術経験表評価調査を実施・評価している	
②社会人基礎力を身につけている	卒業生就職先アンケートを実施・評価している	
③雇用者は卒業生の能力に満足している	ジェネリックスキルテストを実施・評価している	

評価	解釈
A…十分に実施されている	PDCAがなされている
B…概ね実施されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・各科目評価	○	2019年度年報	19	1. ②授業・実習評価に関する事項	19	1. 2) 教員による改善報告書の実施を行い、かつ各領域にて自己点検を行うよう注意喚起した	22	1. 1) (2) 教員による改善報告書の作成を行うことができている。改善報告書は年度ごとの改善点が一覧で見られるため、改善点の推移が見やすいようになっている					
					67-76	各領域において各科目の実施・評価等を行った	67-76	同左	67-76	各領域において将来に向けた発展方策・課題を挙げた			
・修得単位数	○	2019年度年報	19	1. 教育課程に関すること(①新カリキュラムの運用等)	19	1. 1) 新カリキュラムの運用等 1. 2. 3年生が新カリキュラム、4年生が旧カリキュラムを運用した	22	1. 1) (1) 事務課と連携し、休学、留年学生への振り替え科目履修が滞りなく行われた。	26	2. 1) (1) 2020年度より新カリキュラムのみの運用となるが、休学、留年学生への振り替え科目履修を滞りなく行う。	休学・留年学生等は、カリキュラムの変更について個別に対応し、単位修得が滞りなく行えるようにした。		
						30	卒業要件・取得資格						
・卒業先評価	○	2019年度年報	49	4. 就職活動及び内定状況の把握	49	4. 就職活動および内定状況の把握は就業調査票にて行い、2020年1月に卒業年次生全員の進路が決定したことを確認し、学部教授会で報告した。			50	2. 就職活動及び就業調査票は、ユニバでの提出に変更し、集計作業の簡便化、後輩への情報提供の迅速化をはかる。	就職活動および内定状況について、教員間でも共有されている。		
						*3	HP内に就職情報、就職・キャリアサポート、就職に関する各種アンケート結果、就職・進路状況、主な就職先が記載されている。						
・卒業時到達目標の自己評価	○	2019年度年報	19	2. 卒業時到達目標に関すること	20	2. 卒業時到達目標に関すること 学勢調査の結果をもとにカリキュラム内容について検討した。また、「ディプロマポリシーに基づく卒業時看護実践能力到達度評価」については、カリキュラム委員会が担当し、分析結果を共有した。	24	1. 2) 本学のDPに基づく卒業時看護実践能力到達度を評価することを目的に、カリキュラム委員会が担当し、2019年度4年生84名にスマホで実施し評価した。	26	2. 1) (3) 卒業時到達目標調査の学年別設定も視野に入れた見直しを行っている。ループリックなども活用し、学生自身がDPの段階的な到達を自覚できるような指標、各科目での工夫を行う。			
						35	2. 2) 卒業時到達目標の自己評価との関連	35	2. 2) 卒業時到達目標の自己評価との関連：「ディプロマポリシーに基づく卒業時看護実践能力到達度評価」を4年生89名に実施・評価した。	36-37	卒業時到達目標に関して、本学のDPと看護学教育モデル・コア・カリキュラムの「看護系人材としての求められる基本的な資質・能力」、「看護系大学におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」を基に項目を作成した。作成後に看護学部のFDを実施し、卒業時到達目標の項目の洗練化を図った。そして、2019年度の卒業生84名を対象に作成した卒業時到達目標の自己評価を実施した。その結果、各項目の全体平均は3以上あるので総じて高いといえる。特に高いのは自己研鑽力3.53と倫理観3.44であった。項目の中で低かったのは課題探求力3.08であった。看護学部という特殊性から考えて、カリキュラムの特徴である臨床実習経験から専門職としての責務と役割や看護の対象となる人々への態度などに関して学びが大きいと思われる。	38	2. 2) 各年度、各学生の継続的な比較が必要と考える。課題探求力を向上させるためにグローバルな視点を養う学習環境づくりが必要と考える。

資料	根拠資料の 公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員 コメント
・ジェネリックスキルテスト	○	2019年度年報	35	1. アセスメント・ポリシー策定に関する こと	35	1. アセスメントポリシーに関する こととしてジェネリックスキル テストを実施した。ジェネリックス キルテストの費用の予算化にむけ、 その結果や意義についてPA会で 説明を行った。また、学生への フィードバックを行い、学生生活 への活用を促した。	35-36	1. アセスメントポリシーに関する こと③ジェネリックスキルテスト を実施した。昨年度実施した ジェネリックスキルテスト結果を、 学科会議で全教員に共有し、受 験した学生へも4月にフィード バックを行ったことで、強み、 課題について共有できた。	36	次年度より入学時と3年生での 受験が承認され、成長と課題の 明確化を行う。			
・卒業生就職先アンケート調査	○	2019年度年報	49	6. 卒業生に関するアンケート 調査	49	6. 卒業生アンケートは、合同 実施の教育センターと検討し3 年ごとに継続実施することとし た。次回は2021年度に実施予 定である。					2021年度実施予定となってい る		
・看護技術経験表評価調査	○	2019年度年報	19	1. 教育課程に関すること(⑥実 習ポートフォリオ検討)	23-24	(6)実習ポートフォリオについ て、実習委員会との協働中間評 価看護基本技術経験チェックリ ストの評価については、2年生 (回答数72/85名中、回答率 84.7%)、3年生(回答数73/91 名中、回答率80.2%)、4年生 (回答数18/84名中、回答率 21.4%)であった。	24	技術項目により経験率に差が みられた。	27	2.6)次年度は2・3・4年生の 各実習について、「実習ポート フォリオ」と「看護基本技術 経験チェックリスト」を用いる。 看護基本技術経験チェックリス トをどのように活用していくか 実習委員会とも連携し、検討 する。			
	○	HP			*2	HP内に合格率、学習支援内容 が明記されている							
・資格取得：国試合格率	○	2019年度年報	51	1～6. 全員合格を目指した 国家試験対策指導	51-53	2)～9). 模試と対策講座、 図書購入、チューターとの情 報共有、勉強会、保健師・助 産師国家試験対策、自己採 点会、学生へのアンケート	53	看護師、保健師、助産師 国家試験の全員合格	53	学習効果を学生自身が見出し ていくように働きかけていく 必要がある。教材について、 学びが効果的になるための 方法についてさらなる検討が 必要である。模試と対策講 座を多角的に検討していく ことが求められる。不合格 者への継続した具体的な支 援方法を決定する。			

\* 「卒業生就職先アンケート実施」「卒業生就職先評価調査」は「卒業生就職先アンケート調査」に統合

HP資料：HP内のURL

\*2 <https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/exam.html>、<https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/nursing/f2pjgc000000i41n.html>

\*3 <https://www.osaka-med.ac.jp/campuslife/nursing/support.html>

資料3-5. 2020年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 5. 改善

中項目	小項目	総合評価
①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている	学生と教職員が課題や問題点を共有する場がある	
②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次のPlanがたてられている	共有した課題や問題点の改善策を示す場がある	

評価	解釈
A…十分に実施されている	PDCAがなされている
B…概ね実施されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員コメント
・学科会議議事録	△	2019年度第1～11回看護学部学科会議議事要旨：公開資料なし	-	毎月第3水曜日に行われる全教員が参加する定例会議。	-	必要時、全教員で協議すべき事項を協議事項とし、また、各センター、各委員会などからの定期的な報告等を報告事項として実施	-	8月と3月（3月はcovid-19の感染予防対策上のため）を除いて開催した。	-	2020年度も継続して行う（但し開催方法は、covid-19の対策の観点からzoomによるweb開催の場合もあり得る）			
・3センター（看護実践研究センター、看護学教育センター、学生生活支援センター）活動報告	○	2019年度年報（ただし2019年度各センター議事録：公開資料なし、学内教職員のみ閲覧可能）	14～34	目標達成のための課題や問題点を文書で共有	-	3センターとも年報においてPDCAに基づいて記載	-	3センターとも将来に向けた発方策・課題を明記	-	2020年度看護学部活動計画に反映させる			
・卒業生就職先アンケート調査	○	2019年度年報	49	6. 卒業生に関するアンケート調査	49	6. 卒業生アンケートは、合同実施の教育センターと検討し3年ごとに継続実施することとした。次回は2021年度に実施予定である。					2021年度実施予定となっている		
・学生・教員懇談会（学生支援生活センター年報）	○	2019年度年報	31	学生と教員の懇談会	31	学生と教員の懇談会の実施した。参加者は学生6名（1～2年生各2名、4年生2名）、教員6名（学部長、教育センター長、学生生活支援センター長及び委員、有志教員）であった。事前に学生からの意見・要望を募り、学生生活支援センターで集約した。37件の回答が寄せられ、意見交換を行った。学生からの要望に対する回答書を作成し、掲示した。	33	学生との懇談会等を活用した意見交換を行っているが、縦断的な学年間の交流が不十分。学友会活動への参加を含め、学生が主体的に勉強し、快適な学生生活を送ることができる支援体制づくりの推進が課題。	34	学生の自治活動推進のため、学友会活動への参加、懇親会への参加者の増加をはかる運営ができるように支援する。			

大項目 1. ディプロマポリシー

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)		
①	A	A	A	A	A	A	評価	解釈
②	B*1	A	A	B	B	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
③	A	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
④	A	A	B*2	A	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない
⑤	A	A	A	A	A	A		

\*1 学勢調査の結果から身についた能力や態度の自己評価が全体で80%未満のため改善が必要

\*2 私はクリクラ担当で、病棟での多職種連携に関係しています。実習以外では進んでいます、病棟での多職種連携教育は発展途上と考えます。

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)	コメント
・卒業演習評価	A	A	A	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の意見を聴取し、卒業演習決定方法を改善するなど、4年次選択の方法が検討されており、その方法を評価されるとよいと思います。</li> <li>・学生の意見を聴くのは良いことです。この内容については、議事録などがありますでしょうか。</li> </ul>
・GPA（累積GPA・単年GPA）	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期毎のGPAが算出され、指導への活用、科目間の評価の平準化が検討されており、今後の進級判定への活用が期待されます。</li> <li>・入学時と卒業時との成績の相関を検討したデータはありますか。それから入学方法と卒業時との成績の相関についてはいかがでしょうか。私学の場合は、学生の成績の幅が広いです。低学年に対する学修支援は、低学年の総合教育で行われているでしょうか。</li> <li>・学修指導の方法や内容、その効果の記載がなく、評価しづらいです。各学生に合わせた指導を展開していくためにも、それらを継続的に評価しGPAの変化をみていく必要があると思います。</li> </ul>
・休学率、退学率	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍移動の状況が教授会で報告され、教員間で共有されており、個別対応されていると考えます。</li> </ul>
・卒業時到達目標の自己評価	A	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時到達目標に関する卒業生を対象にした調査では、総じて高い結果を得られており、今後は経時的にも評価されるとよいと思います。</li> <li>・Pが不明瞭</li> <li>・自己評価の結果はどこかに掲載されていますか。</li> </ul>
・資格取得：国試合格率	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い合格率を維持されており、国試対策に力を入れておられるのがわかります。</li> <li>・国試合格率100%は素晴らしいです。是非このまま、学生・教育者の二人三脚でがんばってください。</li> <li>・勉強会参加対象学生の出席率の改善が必要であると思います。</li> </ul>
・進学率・就職率	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が就職か進学をされており、就職ガイダンスなどの効果的な学生支援が行われていると思います。</li> <li>・すべての卒業生の就職先はフォローされていますでしょうか。医学部では同窓会との連携はうまくできていません。看護学部ではいかがでしょうか。</li> </ul>

<p>・学勢調査</p>	B	B	A	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学勢調査のうち、HPには学修実態のみが公開されていますが、他は準備中であり、実施されていることは把握できませんが、今後の公開が期待されます。</li> <li>・（学勢調査結果が掲載されているホームページの）閲覧者のカウント等評価指標について考える</li> <li>・P47 4年生の回答率が下がるのは何故でしょうか。</li> <li>・2019年度報告書における17「今年度、身についた能力や態度」では、全項目において2年生の「どちらともいえない」以下の割合が高くなっているため、次年度以降の結果も比較し、学年の特徴なのかカリキュラム上の課題なのかを評価することで、学生の学習意欲にも影響してくると思います。</li> </ul>
<p>・正課外活動ポートフォリオ</p>	B	A	A	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布された資料から正課外活動の作成および学生への周知計画が検討されていることがうかがえます。</li> <li>・課外活動は医学部と同じだと思います。医学部の学生生活支援センターあるいは各部の部長との連携は取れていますでしょうか。</li> <li>・正課外活動ポートフォリオはどのような場面で活用されているのか、またこれに対する学生の評価も記載されていると良いと思います。</li> </ul>

## 大項目 2. 環境

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)		
①	A	A	A	B	B	A	評価	解釈
②	A	A	A	A	C	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
③	B	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
④	A	A	A	B	C	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)	コメント
・学勢調査	A	A	A	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学勢調査のうち、学修実態のみが公開されているが、他は準備中であり、実施されていることは把握できませんが、資料が不足していると思います。</li> <li>・学生の満足度は比較的高いのは良いことです。低学年が図書館などの利用率が低いですが、この理由はどのようにお考えですか。利用方法等を周知していますか？高学年には自習室を貸与しているのでしょうか。</li> <li>・学勢調査の結果を受けどのように改善・変更されたのか、その評価も記載されていると良いと思います。</li> </ul>
・学内ICT状況 (キャンパスマップ、各階平面図)	A	A	B	A	C	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理室のシステムやWi-Fi環境の改善に取り組まれています。</li> <li>・充実したハードウェアの整備は今後の検討課題である。</li> <li>・一階ではwifiが弱く、使えません。</li> </ul>
・常勤教員数	B	A	A	A	A	A	・専任教員に欠員に対し、非常勤や実習補助員の採用は疑問に思います。
・文部科学省調査「指定 (認定)学校概況」等報告書	A	A	A	A	A	A	・文科省に提出されているのであればよいと思います。
・設備 ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニング ルーム ウ) PC台数 エ) 文献検索、統計処理が 可能なPC オ) 無料インターネット (Wi-Fi)接続 カ) 図書館 キ) 自学自習室 ク) 実習室 ケ) キャリアサポートルー ム	A	A	A	A	C	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学習のために利用可能な設備が概ね整っており、学生生活ガイドに施設の利用について、利用時間、使用時の留意事項等が詳細に記載されていると思います。また、学生生活ガイドに学年別の就職活動スケジュール等が掲載され、キャリアサポートがより明確に示されていると思います。</li> <li>・自宅でのWifi環境などを確認し、自宅での学修困難者には支援されていますでしょうか。</li> <li>・看護棟で学習できるスペースが少ないです。また、一階や、二三階の廊下にある勉強するスペースは空調が効いておらず、長時間勉強することができません。</li> </ul>

## 大項目 3. 過程

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	B	A	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)	コメント
・各科目評価	A	A	A	A	A	A	・各領域による評価が行われています。
・カリキュラムマップ	A	A	A	A	A	A	・HPにカリキュラムマップが示されています。
・カリキュラムツリー	A	A	A	A	A	A	・HPにディプロマポリシーと整合したカリキュラムツリーが示されています。
・修得単位数	A	A	A	A	A	A	・卒業要件と取得資格が明記されています。
・実習ポートフォリオ	A	A	A	A	B	A	・看護学教育センターと実習委員会が連携して実習ポートフォリオを検査されています。 ・学生と定期的に交流する機会がありますでしょうか。各委員会、教員FDへの参加など。
・授業評価	A	A	A	A	A	A	・ユニバを用いた授業評価により高い回収率を維持できています。 ・学生から教員への遠隔授業に関する詳細な評価および改善点の指摘はいかがでしょうか ・領域実習における回収率の向上に向けた対策も必要であると思われます。
・進級率、休学率、退学率	A	A	A	A	A	A	・学籍移動の状況が教授会で報告され、教員間で共有されていると考えます。
・保健師、助産師コース希望者数	A	A	A	A	A	A	・保健師、助産師コースの選抜や人数が示されています。



資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)	コメント
・教員によるカリキュラム評価	B	A	A	A	A	A	・教員によるカリキュラム評価が隔年実施のため、毎年ではない理由が不明確と考えます。 ・結果は周知されているのでしょうか。
・GPA（全体推移・単年GPA・個別GPA）	A	A	A	A	A	A	・学期毎のGPAが算出され、指導への活用、科目間の評価の平準化が検討されており、今後の進級判定への活用が期待されます。
・授業改善報告書	A	A	A	A	B	A	・授業改善報告書を作成されており、改善点が可視化しやすいと考えます。
・ピアレビュー報告書	A	A	A	A	A	A	・公開授業によるピアレビューが実施されており、今後の参加方法の改善が期待されます。
・FD実施状況	A	A	B	A	A	A	・教育方法に関する学内交流会や教育講演会が実施されており、活発であると考えます。 ・もし、よろしければ、当日、障がい学生に対する具体的な支援方法を教えてください。
・実習連絡協議会の報告資料	A	A	A	A	A	A	・実習連絡協議会を開催し、指導上の情報共有が行われています。 ・教員は、臨機応変に対応することが要求されず。また、学生の体調管理も重要です。

## 大項目 4. 成果

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	B	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	B	B	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)	コメント
・各科目評価	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善報告書を作成されており、改善点が可視化しやすいと考えます。また、各領域による評価が行われております。</li> <li>・すべての学年を通じて、感染対策あるいは医療安全の講義は行われているでしょうか。看護実習の学生を対象にCOVID19の講義をされましたか。</li> </ul>
・修得単位数	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年進行に沿った新旧カリキュラムの運用がされており、卒業要件と取得資格が明記されています。</li> </ul>
・卒業先評価	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が就職か進学をされており、就職ガイダンスなどの効果的な学生支援が行われていると思います。</li> </ul>
・卒業時到達目標の自己評価	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時到達目標に関する卒業生を対象にした調査では、総じて高い結果を得られており、今後は経時的にも評価されるとよいと思います。</li> <li>・DPと各学年の学習項目との関連を示した図表（学年横断型の）はありますか。</li> </ul>
・ジェネリックスキルテスト	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェネリックスキルテストが実施されており、学生へのフィードバックが効果的であると考えます。</li> </ul>
・卒業生就職先アンケート調査	A	A	A	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に卒業生アンケートが計画されています。</li> <li>・調査結果はどのように共有し、活用されているのでしょうか。</li> </ul>
・看護技術経験表評価調査	B	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護基本技術経験チェックリストの活用が期待されます。</li> </ul>
・資格取得：国試合格率	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い合格率を維持されており、国試対策に力を入れておられるのがわかります。</li> <li>・国試合格率100%は素晴らしいです。是非このまま、学生・教育者の二人三脚でがんばってください。</li> </ul>

大項目 5. 改善

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)	評価	解釈
①	A	A	B	B	C	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	B	B	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
							C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	委員F～J (内部委員)	コメント
・ 学科会議事録	A	A	A	A	A	A	・ 定期的に学科会議が開催されています。
・ 3センター（看護実践研究センター、看護学教育センター、学生生活支援センター）活動報告	A	A	A	A	C	A	・ 年報の活動概要より、3センターが発展的で活発な活動をされていることがうかがえます。 ・ 年報への記載はされないか。学生への公開はされないか。
・ 卒業生就職先評価調査	A	A	A	B	A	A	・ 定期的に卒業生アンケートが計画されています。 ・ 調査結果はどのように共有し、活用されているのでしょうか。
・ 学生・教員懇談会（学生支援生活センター年報）	B	A	B	A	A	A	・ 懇親会への学生の参加者が少数のため、参加者の増加に向けた取組が必要であると思います。 ・ 学生との交流の頻度はどの程度でしょうか。

大阪医科大学看護学教育カリキュラム評価  
2020年度 報告書

発行日 2021年3月12日

発行 大阪医科大学看護学部

〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町7-6

著・編集 看護学部カリキュラム評価委員会

荒木孝治 仲下祐美子 近澤幸

川端由夏 高橋七枝 橋本千恵子